国営昭和記念公園
SHOWA KINEN PARK
公園だより
2025 年 1 月 14 日号

盆栽の魅力を伝え続けて 20 年

風格漂う「生きた芸術」たちが集う盆栽苑

「床飾り/寒桜」掛け軸、草物盆栽（ヤブコウジ）と合わせて空間を演出

針金かけによる整姿作業を行う鈴木さん(1/12 撮影)

国営昭和記念公園（立川市・昭島市）の日本庭園内にある「盆栽苑」は、昨年 11 月 3 日に開苑 20 周年を迎えた我が国初の本格的な国営盆栽施設で、時を経て風格漂う「生きた芸術」と呼ぶにふさわしい盆栽をご覧いただけます。また、自然の美しさを凝縮した盆栽は、職人の手仕事が加わり深みを増します。盆栽の素晴らしさとその奥深い世界に出会うひとときをお楽しみください。

現在、「盆栽いまむかし」と題し、開苑当初時代からある盆栽がどのように変化したかを写真パネルにして展示しています。また、海外では、「BONSAI」という言葉が一般的に通用するほど人気が高く、外国人観光客の来園も増えているため、英語表記を新たに追記しました。

■モミジ「清玄」（セイゲン）推定樹齢 110 年
開苑を機に寄贈いただいたもので、過去 2 回国風盆栽展に出展している名品。

【寒樹】かんじゅ
葉が落ち、繊細な枝先や存在感のある幹の美しさを楽しめる時期

◀現在の様子
根は安定感と力強さが増し、幹と枝のバランスも良く、当公園の花形的存在

【開苑当初から盆栽苑を支え続ける 2 人の専属スタッフ】

開苑から 20 年、繊細な手入れによって、歴史と伝統のある国風盆栽展クラスの名品盆栽の管理を担っています。また、季節やタイミングによっては、植替えや葉すかしの作業をご覧いただける機会もあります。

盆栽苑の顔　鈴木さんと矢部さん

開苑から間もなくして、植替え作業などの実演を行うなど、盆栽の手入れの奥深さなどを発信。今では、盆栽の工程作業を体験し、表現する楽しさを知ってもらおうと「盆栽教室」を開催しています。子どもから大人まで楽しめ、キャンセル待ちが出るほどの人気となっています。ともに盆栽の魅力と、普段目にすることの少ない「作業」という裏側も伝える二人です。

鈴木さんと矢部さんの作業風景